

腫9例平均24.2%、結節性甲状腺腫、慢性甲状腺炎等5例平均8.8%であり、この test の主目的の機能亢進症とその他の甲状腺腫との鑑別診断に有意義であり、かつ5例にて甲状腺腫縮少を認めた。

*

13. 甲状腺機能亢進症に対する ^{131}I 療法の遠隔成績

中谷一弥 福馬昭寿 村上久夫
(広島大学 星野外科)

甲状腺機能亢進症に対する ^{131}I 療法の優秀なことは周知のことではあるが、いまだその副作用、投与方法、投与量に関して若干の批判がある。かかる観点よりわれわれは ^{131}I 療法を行なった413例につきアンケートを求め、その遠隔成績を検討した。解答率は304例(73.6%)であった。われわれの投与法は臨床症状を主体とした採点投与方法を行なっているが、治療成績は一般によく、85.9%の治癒率を示している。晩期副作用では眼突症の悪化不変および虫歯の発生、増悪が目目される。治療後結節性甲状腺腫を発生した例が6例あり、うち2例は組織学的に癌であったが、いずれも当初より合併していたと思われ、 ^{131}I 療法のため発癌したとは考えられなかった。機能低下症に落入った症例は12例あり、意外に少回数投与群に多かった。流産、死産、未熟児、奇形等に関しては、いずれも有意の差は認められなかった。現在まで、とくに重大な副作用は認めていないが、今後十分な観察検討が必要と思われる。

*

14. 各種疾患時におけるブドウ糖負荷後血中インスリン (IRI) の動態について

山吹隆寛 楠本 亨
大西泰憲 有道 徳
(岡山大学 小坂内科)

血中インスリン(以下I)の radioimmunoassay について radiochemical centre の insulin assay kit を用いる方法を紹介した。本法によるブドウ糖 100g 経口負荷時血中 I. 値およびその動態は、健常、糖尿病、疑糖尿病例において他の immunoassay による報告とはほぼ一致した。つきに肝硬変例のブドウ糖負荷時血中 I. の動態は、耐糖能異常例においても大多数が健常例に比し著明な反応を示した。oxyhyperglycemia を呈する症例では、ブドウ糖負荷時血中 I. の著明な反応がみられるが、プレドニソロン・ブドウ糖負荷試験陽性例では、そ

のさいの血中 I. 曲線は糖尿病パターンを示す。また軽症糖尿病(一部の重症例も含む)例で経過後耐糖能の改善する例の中には、血中 I. 曲線の改善するものと、しないものが存在した。これらのことより糖尿病の病態や、肝硬変例における耐糖能異常の観察には血糖曲線とともに血中 I. 曲線の推移を検討する必要がある。なお血中 I. の測定は、insulin assay kit を用いると各研究機関間の成績対比など種々の点で便利と考える。

*

15. TLC を応用した ^{14}C -Cortisol による Cortisol 分泌量の測定

大藤 真 喜多島康一
江沢英光 高原二郎
(岡山大学 平木内科)

われわれは比較的簡単に展開および回収可能な TLC を用いて尿中 cortisol 代謝産物を単離し THF の比活性度より分泌量を測定しさらに cortisol 代謝産物への移行率も測定できる方法を考案し臨床疾患に応用した。対象は Cushing 症候群 Addison 病 Seehan 症候群甲状腺機能亢進症、対照計12例で方法は ^{14}C -cortisol 0.5 μCi を20%ブドウ糖に希釈静注これを同抽法により定量した。成績は cortisol 分泌量は C. S. 38.7mg/day, Addison 病 3.61 hyperthyroidism 治療初期の2例で 26.69および20.12. 高令者の1例および治療後のもので 10.18, 10.16 Seehan で ACTH-Test 中のものが23.0であった。対照では最高 22.62 最低 8.74 であった。各分画では C. S. で Comp F Comp E の増加 THF THE の減少, Addison では Cortol Cortolone の減少 THF の増大 Hyperthyroidism で THF 減少 THE Cortol Cortolone の増加をみた。その他各代謝産物間の Distribution rate についても検討を加えた。

*

16. アセトン体の代謝に関する研究

北室文昭 中本彰司
(鳥取大学 浅越内科)

^{14}C -acetate を用いて alloxan 糖尿病家兎における acetone 体の代謝を追求し、次のごとき結果をえた。

1) ^{14}C -acetate 投与2時間後、糖尿病家兎では血清 acetone 体、 ^{14}C -acetone 体ともに高値を示し、比放射能は低値を示した。これは糖尿病家兎における著明な acetone 体生成の亢進を示していると解される。

2) 正常家兎において、 ^{14}C -acetone 体は急速に減少